

豫科練



No.478 令和5年

9・10月号

○連載《シリーズ海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑》No.21…	2
○連載《シリーズ海軍飛行予科練習生遺稿》……………	3
○海原会機関誌「予科練」編集長退任……………	4
○令和5年度評議員会議事録・提出資料……………	5
○茨城の戦跡紹介⑥……………	13
○真珠湾攻撃50周年 たった一人の慰霊祭……………	14
○ある少年特攻兵の記録①……………	18
○雄翔館見学者感想文……………	21
○第56回予科練戦没者慰霊祭玉串奉納者ご芳名・訃報…	22
○事務局日誌……………	22

公益
財団法人

海原会

海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑

高松宮妃殿下御歌

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行
予科練習生を偲びてよめる

海はらに
はたおほそらに
散華せし

きみら声なく
いく春やへし

この御歌は、高松宮喜久子妃殿下の御直筆で、有栖川流と申しあげ、妃殿下はその御宗家にあたられると承ります。

海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑 第二十二震洋隊の碑 No.21



太平洋戦争における日本海軍の艦隊決戦は、昭和十九年十月の比島沖海戦の決定的な敗北により、正攻法による組織的な戦闘は不可能となり、海も空も特攻兵器による起死回生の作戦に頼らざるを得なくなり、急遽開発されたのが、水上特攻兵器「震洋」という小型爆装ボートで、団突入戦法が実施される事になった。

第二十二震洋隊は、部隊長豊広 稔中尉(兵72)、艇隊長藤本光雄中尉(予兵3) 中川又五郎、岩本三一両兵曹長、搭乗員は、奈良空出身の甲種予科練十三期の若桜で川棚第四次講習を終了し、昭和二十年一月一五日沖繩本島金武湾に配備され、三月十八日には、さらに第四十二震洋隊(井本 親部隊長(予兵3))が進出した。

沖繩戦において多数の戦死者を出した第二十二震洋隊の生存者遺族は、戦後金武会を結成して、慰霊行事を行って来たが、小さな石でも良いから息子の戦死の地に何かを建ててやりたいとの遺族の悲願から、金武村地区戦没者の鎮魂も含め、思い出の地にこの“碑”を建立した。

- 所在地 沖繩本島金武村
- 建立年月日 昭和46年7月26日
- 揮毫 鎌倉円覚寺管長 朝比奈宗源禪師
- 問合せ 金武会事務局 岩田昭郎氏
名古屋市昭和区伊勝町1-78
〇五二-七五一-九二五一

海軍飛行豫科練習生

遺書 遺詠 遺稿 辞世

遺詠

永田 吉春一飛曹（18歳）熊本 乙特一期

菊水五号第七神雷桜花隊 桜花 鹿屋発進 沖縄泊地艦船
昭和二十年五月四日特攻戦死

嵐吹く庭に咲きたる神雷の

名おぞ留めて今日ぞいで征く

吉永 光雄二飛曹（20歳）鹿児島 乙飛十八期

菊水三号第五昭和隊 零戦 鹿屋発進 沖縄本島北端六十湊の敵艦船
昭和二十年四月二十九日特攻戦死

天賭け征かん今日こそは

桜花と共にいざ散らん

松永 篤雄二飛曹（18歳）鹿児島 甲飛十三期

地上玉砕以後第一二航戦水偵隊 零戦 古仁屋発進 沖縄周辺
昭和二十年六月二十五日特攻戦死

悠久の大義に生きん若桜

ただ勇み行く沖縄の空

海原会機関誌「予科練」

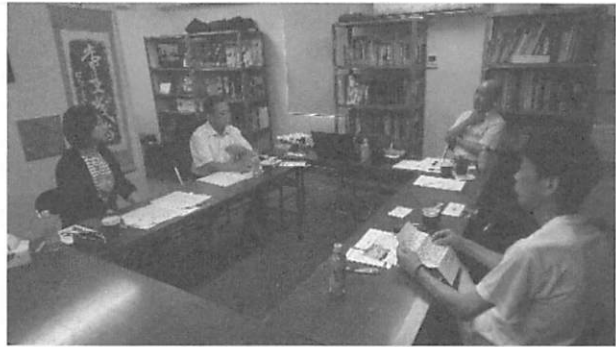
編集長退任

海原会機関誌「予科練」の編集は、約十年の長期間、保坂俊雄理事（乙飛二十三期 九十五歳）が編集長として心血を傾けて執り行つて参りましたが、本年六月任期満了により理事を退任されたためにあわせて編集長も退任を致しました。

長年にわたる保坂理事のご尽力に心から感謝申し上げますとともに、これからは新しい編集委員が保坂理事の意思を受け継いでいってくださるものと確信しております。

過日、海原会では編集長に塚理事を選任し、新たな編集委員会での機関誌編集を行う態勢を整え、早速編集会議を開催いたしました。

会員の皆様には、引き続き機関誌「予科練」をご愛読いただけますよう、お願い申し上げます。（事務局担当）



（第478号編集会議の様子）

編集長を退任しました

編集長 保坂 俊雄
（乙飛二十三期生）

長年にわたり、会報の編集作業を担当して参りました、保坂 俊雄と申します。

私は予科練二十三期生。思い起こせば約十数年前、新

たに編集作業に携わる事となりました。

それまで何人の先輩がこの作業に関わつて来たのか、数えるいとまありませんでした。

編集委員全員が予科練OBの方達で、連綿と続く編集作業に黙々と活字との闘いに、汗を流しておりました。

私が最初に求めたパソコンは、ひらがなが打てず、カタカナと数字の計算だけでした。

やがて日進月歩と共に急速に技術革新が進み、新型パソコンの進出となり、応用範囲もひろがり、極便利になりました。

一方先輩は次々と冥途へと永遠の旅に出かけ、私が、若い予科練生に声を掛け徐々にお手伝いをお願いする役目を担うこととなってしまいました。

しかし九十五歳の最近は、もの忘れが多く、この先無事勤める事の不安を感じ、そろ

そろ年貢の納め時と今般引退を決意いたしました。

これからは、五月の慰霊祭に、杖を頼りに参列するなど、皆様と共に、慰霊顕彰を、生ある限り永遠に務めさせていただきます。

長い間ご愛読有難うございました。若き精鋭の編集員の皆様にはバトンタッチ致します。

今後は以前の生活に戻り、また保護者付のコンサートを娘の、「イルカ」と共に復活です。

前途に幸あれと願いつつ。



（保坂俊雄前編集長）

令和五年度 評議員会議事録

一 日時

令和五年六月十七日

二 場所

ホテルマロウド筑波

三 出席者

評議員定数六名

定足数四名

【出席評議員】

評議員 小野 昌美

評議員 湯原 弘

評議員 明石 英次

評議員 石引 大介

以上四名

【委任状提出評議員】

評議員 久保山賞一

評議員 津島 裕

以上二名

【出席理事・監事】

理事長 安井 剛

副理事長 酒井 省三

理事 平野 陽一郎

理事 篠田 輝男

理事 山下 桂子

監事 豊岡 昭

以上六名

【出席顧問・参与】

参与 行方 滋子

以上一名

四 議事

【定足数の確認】

開会に先立ち、平野事務局

長から定足数の報告があった。

評議員定数六名中四名が出席、

委任状提出二名で過半数が出

席につき本評議員会は海原会

定款第十八条第一項に照らし

て適法に成立することが確認

できた。

【議長の選任】

平野事務局長は、評議員会

出席者の中から、参与行方滋

子氏を議長に指名し議場に諮

ったところ、出席者全員異議

なくこれを承認可決した。行

方滋子氏は議場において議長

に就任することに同意した。

【議事録作成人及び議事録署

名人の指名】

議長は議案審議に先立ち、

本評議員会の議事録作成人に

平野陽一郎氏を議事録署名人

に山下桂子氏及び豊岡昭氏を

それぞれ指名し、議場に諮つ

たところ、出席者全員異議な

くこれを承認可決した。

議長は午後一時評議員会の

開会を宣言した。

第一号議案(その二)「令和

四年度事業報告」について

議長は、当期(自令和四年

四月一日至令和五年三月三十

一日)の事業実施状況につき、

令和四年度事業報告書及び事

業報告書の付属明細書を配布

した上で、平野事務局長を

指名して報告を求めた。平野

事務局長は配布資料に基づき、

事業内容を読み上げながら

説明した。

議長は報告内容について議

場に質疑を求めたところ、湯

原評議員から、海原会の公益

財団法人としての運営は十分

に果たされておき、大変結構

な事であるとの発言があった。

議長は引き続き議場に質疑を

求めたが特になく、質疑なし

と認め議事を終了した。

第一号議案(その二)「令和

四年度収支決算報告」につい

て

議長は、平野事務局長を指

名して令和四年度収支決算に

ついて説明を求めた。平野事

務局長は既配布の財務諸表に

ついて収支の詳細について説

明した。

一 財産目録

二 貸借対照表

三 正味財産増減計算書

四 貸借対照表及び正味財

産増減計算書の付属明細書

(規定により作成を省略し

ているため、注記で報告)

議長は、本議案は第一号議

案(その三)「監査報告」に

ついて報告を受けた後に採決

を行う旨を宣言して第一号

議案(その三)の審議を行っ

た。

第一号議案(その三)「監査

報告」について

議長は豊岡監事を指名して、

令和五年度監査結果について報告を求めた。豊岡監事は、令和五年四月二十二日（土）に海原会事務局において職務執行理事（経理担当）酒井副理事長、業務執行担当役員兼事務局長の平野理事が立ち合いのもと令和五年度監査を実施した結果、適正に処理されており異常がなかったことを机上に配布した監査報告書に基づき報告した。

議長は、監査報告について議場に質疑を求めたが特になく、質疑なしと認め議事は終了した。

次に、第一号議案（その二）について財務諸表の個々について質疑を行ったが特になく、議長は「質疑なし」と認め四個の財務諸表を一括して審議する旨を議場に宣言した後、議案に賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で承認された。

第二号議案（その二）「令和五年度事業計画」について議長は、平野事務局長を指名して令和五年度事業計画について報告を求めた。平野事務局長は机上に配布した令和五年度事業計画書に基づき詳細を報告した。議長は、令和五年度事業計画について議場に質疑を求めた。

湯原弘評議員から、以下の発言があった。

①令和五年度は海原会の体制改革の第二段の初年度であり、「中期計画」の着実な進展に期待する。

②海原会会員の増員について現状の分析と検討を確実に、増員のための具体的な対策を立て実行されたい。

③慰霊祭における武器学校の支援協力について、どうすればこれまで同様に受けることができるのかということを検討し実行されたい。

平野事務局長から、年間を通して武器学校長を始めとする関係幹部及び広報援護班との関係の強化を図り、海原会との良好な関係創りを継続する旨の発言があった。

議長は、引き続き議場に質疑を求めたが特になく、「質疑なし」と認め議事を終了した。

第二号議案（その二）「令和五年度収支予算」について議長は、平野事務局長を指名して令和五年度収支予算について報告を求めた。平野事務局長は机上に配布した令和五年度収支予算書に基づき令和五年度収支予算の詳細について報告した。議長は、令和五年度収支予算について議場に質疑を求めたところ特になく、「質疑なし」と認め議事を終了した。

第三号議案「評議員の選任について」議長は、評議員選定委員会議長の酒井副理事長を指名して評議員の選任について説明

を求めた。酒井副理事長は机上に配布した評議員選定委員会議事録に基づき、現在評議員七名のうち九十歳を超える高齢者が二名就任している現状に鑑み、評議員会の柔軟性を確保するために、巻島政美氏が新評議員として令和五年五月一日（木）開催の評議員選定委員会に於いて評議員に選任され、また同氏は就任承諾書を提出し第五十一回評議員会で承認を受けた時点で評議員に就任することを承諾した旨の報告がなされた。

議長は議場に質疑を求めたところ特になく、「質疑なし」と認め議案に賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で承認された。

【選任された評議員】

（新任）

巻島 政美 氏

（茨城県稲敷郡阿見町）

（以上一名）

第四号議案(その二)「理事の選任について」

議長は、平野事務局長を指名して理事の選任について説明を求めた。平野事務局長は机上に配布した資料に基づき、現在の理事全員が令和五年六月十七日(土)の評議員会終了時点で任期満了に伴い退任する旨の報告があった。

これにともない、平野陽一郎氏、酒井省三氏、篠田輝男氏、安井剛氏、山下桂子氏、星指隆氏を、また、保坂俊雄理事及び湯原豊一郎理事の両名が退任するのに伴い後任の理事として塚純一氏の合計七名の新理事候補者を理事会として推薦する旨の報告があった。

議長は、平野陽一郎氏について質疑を行った後議場に承認を求めたところ、出席評議員全員一致で承認された。

また、選任された平野陽一郎氏は就任承諾書を提出して理事就任を承諾した。

議長は、酒井省三氏について質疑を行った後議場に承認を求めたところ、出席評議員全員一致で承認された。

また、選任された酒井省三氏は就任承諾書を提出して理事就任を承諾した。

議長は、篠田輝男氏について質疑を行った後議場に承認を求めたところ、出席評議員全員一致で承認された。

また、選任された篠田輝男氏は就任承諾書を提出して理事就任を承諾した。

議長は、安井剛氏について質疑を行った後議場に承認を求めたところ、出席評議員全員一致で承認された。

また、選任された安井剛氏は就任承諾書を提出して理事就任を承諾した。

議長は、山下桂子氏について質疑を行った後議場に承認を求めたところ、出席評議員全員一致で承認された。

また、選任された山下桂子氏は就任承諾書を提出して理事就任を承諾した。

議長は、星指隆氏について質疑を行った後議場に承認を求めたところ、出席評議員全員一致で承認された。

また、選任された星指隆氏は就任承諾書を提出して理事就任を承諾した。

議長は、塚純一氏について質疑を行った後議場に承認を求めたところ、出席評議員全員一致で承認された。

また、選任された塚純一氏は就任承諾書を提出して理事就任を承諾した。

【退任した理事】

保坂 俊雄 氏

(東京都調布市)

湯原豊一郎 氏

(茨城県稲敷郡阿見町)

【重任した理事】

平野陽一郎 氏

(茨城県稲敷郡阿見町)

酒井 省三 氏

(茨城県稲敷郡阿見町)

篠田 輝男 氏

(茨城県稲敷市)

安井 剛 氏

(東京都東村山市)

山下 桂子 氏

(茨城県稲敷郡阿見町)

星指 隆 氏

(東京都練馬区)

【新任の理事】

塚 純一 氏

(東京都江戸川区)

第四号議案(その二)「監事の選任について」

議長は、平野事務局長を指名して監事の選任について説明を求めた。平野事務局長は令和五年六月定例理事会の決議に基づき、監事候補者として原雅英氏(七十五歳)を推薦する旨の報告があり、原氏を監事候補者として推薦する理由について添付の資料に基づき説明した。

議長は、議場に質疑を求めたが特になく「質疑なし」と認め、議案に賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で承認された。

第五号議案「令和五年度海原会定款の改訂について」

議長は、平野事務局長を指名して令和五年度海原会定款の改訂について説明を求めた。平野事務局長は、机上に配布した資料に基づき海原会定款付則の別表第一「基本財産（公益目的事業を行うために不可欠な特定財産以外のもの）」（第五条関係）改訂する旨説明があった。

議長は議場に質疑を求めたが特になく、「質疑なし」と認めて賛成の評議員に挙手を求めたところ異議はなく出席評議員全員一致で承認された。以上で、全ての議案について審議を終了したため議長は午後二時十分閉会を宣言し散会した。

以上、この議事録が正確である事を証するため、議長及び議事録署名人は記名捺印する。

令和五年六月十七日

公益財団法人 海原会



(議事を進行する議長の行方参与)



(監査報告をする豊岡監事)



(評議員の質問に資料を提示して回答する事務局長)

.....
次頁より令和五年度評議員会に提出されました、左記の資料を掲載いたします。
財産目録
（令和五年三月三十一日現在）
貸借対照表
（令和五年三月三十一日現在）
正味財産増減計算書
（令和四年四月一日から令和五年三月三十一日まで）



財産目録

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

令和5年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	手元保管 普通預金 三菱東京UFJ銀行	運転資金	132,285
預金			5,162,559
郵便振替			513,712
流動資産合計			5,808,556
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	普通預金 三菱東京UFJ銀行	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(公1～公3)に使用している。	70,000,000
(2) 特定資産			
慰霊顕彰事業基盤整備 特定費用準備金	普通預金 常陽銀行阿見支店	特定費用準備金として公1事業のために使用している	5,030,043
(3) その他固定資産			
構築物(山本五十六像)	茨城県稲敷郡阿見 町青宿121-1陸上自 衛隊武器学校構内 雄翔館前に設置	公益目的保有財産であり、予科練記念館に設置して公一事業に使用している不可欠特定財産である。	1,370,127
固定資産合計			76,400,170
資産合計			82,208,726
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
預り金			
流動負債合計			0
負債合計			0
正味財産			82,208,726

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	132,285	187,969	△ 55,684
普通預金	5,162,559	2,677,299	2,485,260
郵便振替	513,712	1,217,891	△ 704,179
現預金合計	5,808,556	4,083,159	1,725,397
貯蔵品	0	0	0
仮払金	0	0	0
流動資産合計	5,808,556	4,083,159	1,725,397
2. 固定資産			
(1)基本財産			
普通預金	70,000,000	76,000,000	△ 6,000,000
基本財産合計	70,000,000	76,000,000	△ 6,000,000
(2)特定資産			
慰霊顕彰事業基盤整備			
特定費用準備金	5,030,043	6,000,000	△ 969,957
(3)その他の固定資産			
土地	0	0	0
建物	0	0	0
構築物	1,370,127	1,537,740	△ 167,613
その他の固定資産合計	1,370,127	1,537,740	△ 167,613
固定資産合計	76,400,170	83,537,740	△ 7,137,570
資産合計	82,208,726	87,620,899	△ 5,412,173
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金		9,189	△ 9,189
流動負債合計	0	9,189	△ 9,189
負債合計	0	9,189	△ 9,189
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	82,208,726	87,611,710	△ 5,402,984
負債及び正味財産合計	82,208,726	87,620,899	△ 5,412,173
備 考	財務諸表に対する注記に記載しているため付属明細書は省略する。		

正味財産増減計算書(税込)

公益財団法人 海原会
公益目的事業会計

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[0]	[0]	0
基本財産受取利息	0	0	
普通財産運用益	[67]	[67]	0
普通財産受取利息	67	67	
受取会費	[1,737,000]	[1,461,100]	275,900
募金収益	[0]	[267,000]	△ 267,000
受取慰霊寄付金	[2,062,000]	[2,039,260]	22,740
広告料収益	[243,000]	[243,000]	0
雑収益	[18,080]	[94,120]	△ 76,040
経常収益計	4,080,147	4,104,547	△ 44,400
(2) 経常費用			
事業費	[9,259,852]	[9,148,554]	111,298
慰霊顕彰事業費	(6,452,743)	(5,622,831)	829,912
慰霊祭費	2,161,946	712,541	1,449,405
霞ヶ浦支部活動費	422,267	341,459	80,808
遺族支援調査費	7,387	59,136	△ 51,749
資料収集整理費	5,036	0	5,036
関係団体費	167,300	294,280	△ 126,980
慰霊顕彰事業基盤整備費	970,000	0	970,000
給料手当	645,411	684,390	△ 38,979
会議費	78,951	10,174	68,777
旅費交通費	286,283	403,634	△ 117,351
通信運搬費	684,335	742,575	△ 58,240
消耗品費	54,206	109,325	△ 55,119
渉外費	87,634	100,780	△ 13,146
光熱水料	164,286	90,585	73,701
租税公課	1,547	80,418	△ 78,871
印刷製本	1,329	0	1,329
会費受取手数料	34,203	50,925	△ 16,722
顧問報酬	29,246	439,746	△ 410,500
建物管理費	462,384	501,668	△ 39,284
減価償却費	107,641	120,809	△ 13,168
雑費	81,351	880,386	△ 799,035
機関誌発行費	(2,766,891)	(3,463,364)	△ 696,473
機関誌発行費	1,504,013	1,505,315	△ 1,302
給料手当	299,792	317,897	△ 18,105
会議費	36,672	4,726	31,946
旅費交通費	132,978	187,487	△ 54,509
通信運搬費	317,872	344,924	△ 27,052
消耗品費	25,178	50,781	△ 25,603
渉外費	40,706	46,812	△ 6,106
光熱水料	76,310	42,076	34,234
租税公課	719	37,354	△ 36,635
印刷製本	617	0	617
会費受取手数料	15,887	23,655	△ 7,768
顧問報酬	13,585	204,261	
建物管理費	214,776	233,023	△ 18,247
減価償却費	49,999	56,116	△ 6,117
雑費	37,787	408,937	△ 371,150
支援金	(40,218)	(62,359)	△ 22,141
青少年育成支援金	0	0	0
給料手当	9,547	10,124	△ 577
会議費	1,168	151	1,017

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
旅費交通費	4,235	5,971	△ 1,736
通信運搬費	10,123	10,985	△ 862
消耗品費	802	1,618	△ 816
渉外費	1,296	1,491	△ 195
光熱水料費	2,430	1,340	1,090
租税公課	23	1,190	△ 1,167
印刷製本	20	0	20
会費受取手数料	506	753	△ 247
顧問報酬	432	6,505	
建物管理費	6,840	7,421	△ 581
減価償却費	1,592	1,787	△ 195
雑費	1,204	13,023	△ 11,819
管 理 費	[203,279]	[1,284,400]	△ 1,081,121
給料手当	50,250	53,285	△ 3,035
会議費	6,147	792	5,355
旅費交通費	22,289	31,426	△ 9,137
通信運搬費	53,281	57,815	△ 4,534
消耗品費	4,220	8,512	△ 4,292
渉外費	6,823	7,847	△ 1,024
光熱水料費	12,791	7,053	5,738
租税公課	121	6,261	△ 6,140
印刷製本費	104	0	104
支払手数料	10,158	956,196	△ 946,038
会費受入手数料	2,663	3,965	△ 1,302
保険料	-18,560	0	△ 18,560
顧問報酬	2,277	34,238	△ 31,961
建物管理費	36,000	39,059	△ 3,059
減価償却費	8,381	9,406	△ 1,025
雑費	6,334	68,545	△ 62,211
経常費用計	9,463,131	10,432,954	△ 969,823
評価損益調整前当期増減額	△ 5,402,984	△ 6,328,407	925,423
投資有価証券評価損益等	[]		
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 5,402,984	△ 6,328,407	925,423
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	10,865,120	
建物売却益	0	1,759,846	
土地売却益	0	9,105,274	
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	
当期経常外正味財産増減額	0	10,865,120	
当期一般正味財産増減額	△ 5,402,984	△ 6,328,407	925,423
一般正味財産期首残高	87,611,710	83,074,997	4,536,713
一般正味財産期末残高	82,208,726	87,611,710	△ 5,402,984
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	
III 正味財産期末残高	82,208,726	87,611,710	△ 5,402,984
備 考	財務諸表に対する注記に記載しているため付属明細書は省略する。		

茨城の戦跡紹介⑥

海原会参与

行方 滋子

皆さんは、「神立平（かんだつだら）飛行場」をご存知でしょうか？

私の家からも歩いて行ける距離にあった飛行場ですが、私とその飛行場の存在を知ったのは、最近のことです。

神立平飛行場は、海軍航空隊の中級以下の機体による滑空教育をするために、長さ八百メートル×幅四百メートルの規模で整備（芝張）された飛行場で、昭和二十（一九四五）年六月に女優の高峰三枝子さん参列のもと開設式が挙行されました。

しかし、本格的に使用されることはありませんでした。神立飛行場については、秘匿飛行場であり、記録等が無いため詳細は不明です。

そこで今回は、藤森睦雄さん（第十五期海軍飛行専修予備学生）が書かれた手記「一本松の青春―海軍飛行専修予備学生の三六五日―」の中から神立平飛行場に関するところを一部抜粋してご紹介させていただきます。

【昭和十九年】

◆ 二月十九日（月）晴
二組、適性検査一日中行われる。我々一組は午前中、氣象天気図作成を行う。

午後、元の十三分隊と七分隊の学生舎を石岡、神立の二滑空場に移すので取り壊し中につき、此の作業を手伝う。
一四〇〇、一先ず休憩中、第一警戒配備三報となり作業中止して学生舎に帰り、準備する暇もなく二報となり、急いで外套着用、雨具持参のまま疎開退避す。防空壕にいること二時間、一六三〇帰舎す。

◆ 三月三十日（金）晴

《旧分隊解散・新分隊編成》

《学生舎移動》

一部、神立に行く分隊は〇三〇〇起床。各種準備をなす。その他の者は平常通り〇六〇〇総員起こし。今朝は朝礼なく、直ちに身の回り整理。又、石岡・神立分隊は荷造りに励む。朝飯後も身の回り整理を続行。その間、貸与品の整理返却等を行い、一〇三〇頃迄に一応全部終了さす。

【昭和二十年】

◆ 五月三日（木）薄曇

〇三四五総員起こし、〇四一〇朝食。〇四四〇整列、出発。〇五四〇土浦駅着。

大部分の者は八カ月ぶり、長期的に言えば足掛け二年ぶりで汽車に乗れる。然も、僅か一駅で数分間の乗車ではあるが、汽車に乗れるのがどんなに嬉しいことか。予定が発表された数日前より話し合っていた事で大体分かる。〇六一〇待望の汽車に乗り、大いに満足感を味わう。

これが家に帰るのだったら、

と、休暇で帰る時の気分を想像し、皆、感慨を新たに話す。

車窓からみる車外の景色が、走馬灯の如く去って行くのを数カ月ぶりで見た。

数分後神立着。直ちに神立派遣隊基地隊に向かう。駅から十分足らずの近くにあるので、この点便利だ。既に一カ月前に行つて訓練を受けている五十三・五十六分隊の同輩に迎えられ到着。加藤大尉の挨拶あり。直ちに学生舎に行き、糧糞・出納・短剣等の携行品を置き、一部作業員を残して作業を行う為、農具庫に行き農具を受け、〇七〇〇作業開始。木の根や、地中の太い竹の茎を掘り出す。一七三〇夕食、一八三〇吊り床卸し、直ちに就寝。畳の上に毛布三枚で寝るのであるが、畳表は藁ではなく、頑丈な柔道用の布製であり、又、毛布も使用するの趣が全然違い、ピンと来なかった。滑空の連中は、我々が来たためか極めて張切

っており、我々の側を通る時には、特にイチニ、イチニの声が大きくなるようだ。

滑空場は、主に森林地帯を開墾したらしく、未だ木の根が多かったが、周囲の景色や環境は断然よい。全く高原地帯の感深く、長野の田舎を思いう出す。

【飛行場跡】

霞ヶ浦から九キロ、常磐線神立駅から四キロ付近

神立平飛行場については、これ以上のことは分かりませんでした。

読者の皆様で、ご存知の方がいらっしゃいましたら、ぜひ追加記事の投稿お願い致します。

【参考文献】

- ◆ 一本松の青春
- ◆ 戦争の記憶マップ（土浦市）



(神立平飛行場跡)

真珠湾攻撃五十周年

— たった一人の慰霊祭 —

第四代理事長

菅野 寛也

「遺伝」と言えば、先ず「疾患」と考えるのは、医師ばかりでなく、一般の人でも常識であるが、時に意外な事で遺伝が論じられる事もある。「記憶の遺伝」よってご先祖様の

「宝」を掘り出した例もあったと、何かの本で読んだ記憶？がある。

今回の私の「行動」も、或は先祖代々の血筋即ち「遺伝」が影響しているかも知れない。

平成三年（一九九一年）十二月八日（ハワイ時間十二月七日）パールハーバーの丘に立ってアリゾナメモリアルを眺望したとき、五十年前の日米開戦ニュース（「帝国陸海軍は本八日未明西太平洋において、米英軍と戦闘状態に入れり」）が一瞬思い出された。

あの時「五十年経ってまさか自分がパールハーバーを訪れることになる」とは全然予想もしなかった事であるし、過ぎ去った年月は随分長いような、また逆にあつと言う間の時間の様にも思えた。何で自分がここに来ているのかなとも考えたりもした。やはり、これは代々軍医であったご先祖様の教示であろう。特

に、日露戦争に従軍し、軍医の身であり乍ら、金鷄勲章を頂いた祖父が、「血糊のむすびを食べ乍ら傷病兵の手当てをした」と話してくれた事が、私の行動の原点だと信ずる。

先日二、三の新聞（十二月九日付朝日新聞や十二月二十一日付静岡新聞）に報道されたのでそれらの記事を合わせると「説明」になるのだが、逆に限られた紙面での制限も感じられる。日米開戦五十周年にパールハーバーを訪れようと決心したのは、一九九一年（平成三年）八月アリゾナメモリアルを再訪した時だった。

前回の参詣時と異なり、非常にシビアな雰囲気です。我々日本人ツーリストに向って受付のオフィサーが「グレイブ（墓）。グレイブ」と大声で叫んだ。ツアーガイドに向って「ここは墓場なんだと言う事を日本人に説明しなさい」と言っている。こんな事は今

までに無かつた事でやはり「五十周年」を意識させられる場面であつた。

それで「この儘ではいかん。何とか日本人としても行動すべきだ」と考えたが、「残念乍ら今日の日本の政治家は、恐らく何もしないだろう。それは、湾岸戦争の時で実証済みだし、総理がまた中曾根さんに、ならないかぎり不可能だな」と思った。誠に残念乍ら、私の予測はドン・ピシャリだった、日本政府は何のアクションも見せなかつた。一方、私の「何かしたい」という気持ちは押さえきれず、新旧米大使、米海軍、遂にはアリゾナメモリアル迄慰霊祭参加を申し入れたが、如何せん、パールハーバーウィークには米本土から六万人が訪れ参詣するとの事で、私の希望は「インポッシブル（不可能）」だと返事が来た。常識ならば、これで計画は中止である。然し二十年前より賤機山山頂（浅間山山頂）で静岡空襲の

犠牲者の、日米合同慰霊祭を主催してきた私としては「これで引き下がるわけにはいかない」と、考えた。

今までの実績が私に「義務感」の様な心境をもたらしたかもしれない。また、伊藤福松さん（日米慰霊碑の建立者）の意志が私を動かして下さつたのかも知れない。とにかく日米両国犠牲者、特にB-29搭乗者の慰霊を、日米戦争勃発の地、ハワイのパールハーバーで行えば良い供養になるのではないかと確信する様になつた。

そして十二月八日にあわせてハワイ行きを決心したが、なかなかホテルの予約が出来ない。トラベル エージェンシーも驚いていたが何とかザーブ出来たのは一月になつてからだった。

巷では、マスコミはこぞつて「真珠湾五十周年」を報じている。私の「決心」を知つてこんな時にそんな所へ行くのは危険だと真剣に中止を忠

告してくれた友人も居た。然し私は「信念」もあつたし、また「アメリカ」に対する信頼感で余計な心配はしなかつた。

それよりアリゾナメモリアルへ公式参詣出来なければ何が出来るかが心配だった。

ようやく、直前になつて、静岡新聞の友人（役員）が、ハワイ報知のポール円福社長を紹介してくれたのでとにかく現地へ行つて、考える事にした。止むを得なければ「ホテルの一室に祭壇をしつらえて、たつた一人で慰霊祭をやる」事になるかも知れない。それでも良いと思つて出発した。

十二月六日成田発午後九時三十分（JAL）十二月六日（ハワイ時間）午前九時ホテル着とそこまでは予定通りだったが、その後が大変だった。B-29搭乗員遺品の水筒は金属探知機に反応するの

絡済みで無事に通過、ホツとしたが空港からワイキキのホテルまで通常なら二十分で着く筈が、何と一時間三十分かかった。日系ドライバーが、「今、ワイキキで、パレードをしているので、交通渋滞です」と、何だかすまなそうにいつている。

ホテルに着いたら丁度ワイキキ通りは、パレードの最中。部屋が三十九階なのでベランダから見ると「星条旗」を高く掲げて、何組も、何組も、そして楽隊や「ユニオンジャック」も行進している。日本人にとつては、パレードというよりまさに「デモンストレーション」と言つた感じである。流石に圧迫感を感じたがすぐに「これだから何かしなければ」と思い直して、早速紹介された現地ハワイ報知社を訪れた。

渡航直前に連絡がついた前回のアリゾナツアーのガイドさんが駆けつけてくれたので大助かり、ハワイ報知社で

「七日、八日にハワイ仏教会の慰霊祭がある」と聞いたので、先ず日蓮宗ハワイ分院を訪れた。

週刊読売にも出ていた小川師が居られ、六十五名の日本海軍戦没者の霊簿が祭られているお寺である。小川師は「明日七日、日本の戦死者の供養をするからその時に、B―29パイロットの慰霊も御一緒にしましょう、大変良い時に、日米双方の慰霊ができますね」と、喜んで下さった。

翌七日、正に日本時間十二月八日朝、小川師の読経で、日米慰霊祭が始まった。B―29遺品の水筒も供えられている。そして「飯田大尉以下六十五名（パイロット及び特殊潜航艇の戦死者）の名前に続いてB―29戦死者二十三名の名前が読み上げられ、参列者が順次焼香した。

丁度その頃パールハーバーの式典に参列された日本のパイロットの一人前田さん（当時加賀の艦攻搭乗）が駆け付

けて最後に焼香された。

そこには、テレビ朝日とTBSが取材に来ていて、私もインタビュースされ日本で放映されたので、二、三の方から「先生がテレビに出ていましたよ」と言われたが、残念乍らハワイ滞在中の事で本人としては、見る事が出来ず当局にリクエストしたが現在まだフィルムが入手出来ない。

然しその際、朝日新聞の記者が取材に来ていて熱心に私の話を聞いてくれて十二月九日の記事になった。その時「前田さんや二、三の日本のパイロットに式典直後インタビュ―を試みたが、アメリカ人達のサイン攻めで、殆ど取材出来なかった」と聞き、一寸驚いたが半面ある意味でのアメリカ気質に触れた様な気がしました。日米合同慰霊祭以来、それまで余り外国人に縁のなかった私も、随分多くの米国人と知り合ったが彼等の宗教心の深さや人間性等ようやく理解し、また時には感服させら

れる様な事があったので、前田さん達が「サイン攻め」に逢った状況もわかる様な気がする。恐らく、日本の搭乗員も複雑な心境で参列された事と思うがそれに対してアメリカ側もフェアな気持ちで接しサイン攻めに逢ったのではないかと思う。その時「ああやっぱり来て良かったな」と思った。

自己満足かと思われるかも知れないし、またたった一人で何が出来るかと思われたが歴史の節目の時に、意義ある事が出来て良かったと今でも信じている。そして、この時から更に歯車が廻り出した感じである。

翌日、ハワイ全土の仏教徒の代表が、曹洞宗ハワイ別院で総会を開催するからいらっしやいと誘って下さったので、参列した。各派の代表のスピーチは時に日本語、時に英語、御詠歌も英語、然し般若心経は立派に日本語であった。因に私は友人の僧侶から送られ

た般若心経のネクタイを締め参列した。式は二部に分かれ、最初は仏教徒総会、二部が、太平洋戦争五十周年に当たり平和を祈願する会であったが締めくくりに、ハワイ選出の米国下院議員ミンク女史が英語で熱心に演説されて式が終了した。

その直後に「日本からドクター菅野が、B―29の遺品を持って慰霊に来ていて」と紹介され一寸戸惑ったが、度胸をきめて「ブロークンイングリッシュで失礼します。」と挨拶を始めた。当然、静岡空襲の事も話したが「二、三〇〇〇人の市民が亡くなった」と、話した時は、一瞬こちらがびっくりする位静かになった。パールハーバーの戦没者と同じ位の犠牲者と言う事での実感があつたかも知れないし、市民の犠牲と言う事でショックであつたかも知れない。最前列でミンク女史が涙をふいているのが、ちらつと見え

式後のレセプションで大歓
迎され特に、天台宗の荒了寛
師、本願寺の帆足師、両師に
激励され、是非戦艦アリゾナ
へ行こうと言う事になった。
「帆足」と言う名で「もしや、
マレー沖海戦帆足中尉との
ご関係は？」とお聞きしたら
「私の兄です」とのご返事、
御自身も、零戦パイロットの
一員であったと聞かされた。
驚いている暇もなく、翌日と

にかく戦艦アリゾナへ向かつ
た。車中で帆足師に「五十年
前の新聞写真」（英東洋艦隊
とパールハーバーの戦艦群）
を見せて頂いたが、十二月九
日（日本時間十二月十日）正
に五十年前帆足少尉（当時）
が戦艦プリンス・オブ・ウェ
ールズと巡洋戦艦レパルスを
発見された日である。更に車
中の話は続き「本願寺の信者
さんの中で空襲当日漁に出て
いた人の話で日本の飛行機
一機が近くに墜落して来た。
日の丸を見てすぐ近づき、一
人の飛行士が泳いでいたので

救助しようとしたが、日系人
と判らなかつたらしく、ピス
トルで自殺して沈んでいった。
ライフジャケットに「朝日」
と書いてあった。戦後、「金
沢の人」だと判ったので、遺
族を訪れお墓参りしたそうで
すが、残念乍らその人の名前
を忘れてしまった」と聞かさ
れ今更のように、歴史の現実
に直面したような心境になつ
た。

アリゾナ記念館ビクターセ
ンターに着いた時には日も西
に傾きメモリアルに参詣した
人達も帰途につく所で人影も
少なく、これなら周囲に気兼
ねしないでセレモニーが出来
ると場所を探したが、結局ア
リゾナメモリアルへ向かう棧
橋で行う事にした。

B-29 遺品の水筒の中に
は天台宗別院で荒師に祈祷し
て頂いた聖水が入っている。
戦艦アリゾナに向って献水、
献花、供養、祈祷したが、折
からの夕日を背にして、アリ
ゾナメモリアルがシルエット

として浮かび上がっていた。
「ああ、良かった。来た甲斐
があった」と、ホッとしたが
何だか体中の力が抜けた感じ
であった。急に疲れを感じそ
の日はぐっすり眠れた。

翌日は、領事館へ出来場首
席領事表敬訪問、お礼に行つ
たのに逆に激励して下さった。
夜、天台宗荒師のお誘いで、
久しぶりの和食、レストラン
で水炊きをご馳走になつてい
るとマスターが来て「あなた、
新聞に出ていた人ですね。私
も日本人です。ご苦労様で
す。」と言われた。

また、その後、ABCスト
アや、空港で、日系人の人が
「パールハーバー・ウィーク
は早く過ぎてくれれば良いの
に」「新聞や、テレビ、本等
で圧迫される」と「重荷を感
じる日々であった」と話して
くれたが、それだからこそ、
意義のあるツアーであった。
別れ際、荒師が「これは、
お説教だが、もつと早く来て
くれれば良かった。そういう

事（合同慰霊祭）はもつと多
くのの人に知らせなければなら
ない、あなたは、怠慢だよ。」
と言ってニヤリと笑った。そ
して「然し、今年来てくれた
事は大変意義のある事だった。
これからあなたはB-29の
遺族探しを一生懸命やりなさ
さい、それがライフワークだ
ね。」と付け加えられた。大
変な宿題を背負った事になる
が、やり甲斐のある仕事だ。
そうなると、ハワイの慰霊祭
がスタートとなる。

新たな気持ちで帰国の途に
ついた。

【参考】

昭和十六年十二月八日当時

前田 武 一飛曹 電信

甲飛三

加賀 九七艦攻

第一中隊四一小隊

二番機

三飛曹 偵察

偵察練習生四一期

（石川）

加賀 九九艦爆
第二中隊二四小隊
三番機

この記事は、海原会懸賞文に
応募された作品です。

(事務局)

ある少年特攻兵の記録①

小野 一

予科練の厳しい訓練

額から汗がポタリ、ポタリと落ちて、下の床が黒く濡れてゆく。そして、ついには汗も出なくなり、床が白く乾いてゆく。

両手を床につき、ひざを伸ばしたまま体を支える。「腕立て伏せ」のことを、海軍では「前支え」という。その「前支え」の姿勢を取り続けてから、もう二時間以上にもなるであろうか。ともすれば苦し

さにひざが床につきそうになる。その都度班長達の叱咤がとぶ。皆の顔がゆがみ、われわれの体力はすでに限界に来ていた。

食卓の上の食事には、まだ手が付けられていない。突然、分隊長がやってきて「立って食事をしろ」と言った。われわれは、しびれたように立ち上がった。そして泣いた。泣いたのは制裁のつらさからではなく、班長達の反対を押し切り体罰を解いた分隊長の行為に、ある温情を感じたからである。少年兵たちは温かさ

に飢えていたのであった。昭和十九年四月一日、私は海軍甲種飛行予科練習生十四期生(予科練)として、土浦海軍航空隊に入隊した。当時、私は旧制中学校に在学中であったが、戦況もいよいよ切迫し、こうしていられないと思う気持ちも強く、又予科練の七つ釘の制服と飛行機乗りの格好良さにあこがれ、両親の反対を説得して志願したのである。

ある。

入隊後の訓練は聞きしに勝る激しいものであった。朝起きてから夜寝るまで、つらい訓練の連続である。それにも増してつらいことは「罰直」と呼ばれる精神的、肉体的な制裁である。げんこつや、精神注入棒とかで、力一杯殴られ、さらに前述のようないろいろな形の体罰が続く。その中には加虐的なものも多かった。それが軍隊生活を灰色のなものにしていたのである。

楽しみといえば食うことと、寝ること、そしてときたまの土浦市内への外出だけであった。

約六か月の基礎訓練の後、偵察と操縦の班に分かれた。私は「ハトポツポ」といわれたシミュレーションによる操縦テストの成績が良かったので、てつきり操縦班に編入されるものと期待していたが、なぜか偵察班に廻されてしまった。その主な理由は前近代的な観相(骨相・手相)によ

るものと思われる。草柳太蔵の「特攻の思想・大西瀧次郎伝」によれば、海軍航空隊は一人一人の手相と人相を見てパイロットの適性を決めていたそうである。事実われわれも人相見に手相と人相を観察されている。

その年の秋に行われた東京見学と、横須賀沖で停泊艦装中の航空母艦「信濃」の見学は、つらい訓練の中での楽しい思い出のひとつであった。

特攻要員の募集

年が明け、戦局がますます不利になってきたことは、情報不足していたわれわれにも容易に察知された。三月十三日夜の東京大空襲は、われわれに大きなショックを与えている。土浦の上空を、「空の要塞」といわれるB-29の大編隊がゴングと音を立てて東京方面に向かう。まもなく西南の空が真っ赤に染ま

った。「ちきしよ、東京がやられている。」焼けただけのような赤い空を眺めて、切齒扼腕したものである。

数日後、航空隊司令より話があるというので、十四期生全員が飛行機格納庫に集合した。司令は戦局の多難さを切々と訴え、さらに飛行機の生産がはかばかしくないことを訴えたのち、「新しい特攻兵器が開発された。その兵器は魚雷艇のようなものである。それに乗る特攻隊員を募集する。希望者は一歩前へ出るように。」と言った。ほとんど全員が希望した。私も一歩前に出たが、私は飛行機に乗りたいと思っていただけに、特に熱心に志望したわけではなかった。しかし、あとで分かったことであるが、血書を書いて志願した人もあったという。

その後、特攻隊編入者の名前が発表になり、その中に私の名もあった。どうせ、いつかは死ななければならぬの

だし、いまさらどうという気持ではない、というのが当時の特攻兵器だろうという関心が強かった。

ただちに、新しい班が編成され、専用列車で九州に向かつて出発した。途中、東京、大阪、の空襲による焼野原を眺め、無性に敵愾心をかきたてられたのを覚えている。

特攻兵器「震洋艇」

修学旅行にも似た長い旅のうち、長崎県の大村湾に面した川棚海軍臨時訓練所に到着した。翌日われわれは初めて自分たちが乗る特攻兵器を見せられた。震洋艇という名のベニヤボートである。予期していたより貧弱な兵器で、正直なところガッカリした。

震洋艇とは、長さ五米、重量一・三五トン、一人または二人乗りのモーターボートで、艇首には二八〇匁の爆薬を積み、敵の上陸予想地点に待機

し、敵艦船の接近と共に突撃、体当たりを敢行するというものである。私にとつて特にシヨックだったのは、もし、体当たりしても爆発しない場合は運転席の下にある針金を引いて自分で爆発させるようにできていたことである。

ここに来る前まで我々が考えていた特攻兵器とは、たぶん、特殊な魚雷艇で、敵艦船に接近し魚雷を発射しながら攻撃を繰り返す、そのような兵器ではないかと空想していた。だが、そんな甘い考えは一辺に吹き飛んでしまった。

その日から二、三日皆元気がなく、だまり込んでしまった。死については、特攻隊に編入された時から一応の覚悟は出来ていたものの、今あらためて死と真正面から向かい合ってみると、それを自分でどう納得させたらよいのか、又どう処理してよいのか、急にはわからなかったのである。三十六年後の今、その時のことをあらためて考えてみた。

われわれ人間は、自分の意志によって生まれることが出来ない。と同様に、自分の意志によって死ぬことも出来ないのではないだろうか。普通の場合、死とは病氣や事故などにより、外部から与えられるものである。

しかし、特攻隊員の場合は、それが何者かによる強制的なものにしても、建前はやはり自分で望んで志願し、死におもむくのである。そこにいろいろな葛藤や自己矛盾が生じるのは、至極当然と言わねばなるまい。どのような形であれ、自分の死を合理的に納得させようとすることは、並大抵のことではなかったであろう。

翌日から震洋特攻隊員としての特別訓練が始まる。訓練内容は、震洋艇の操縦、艇隊運動、突撃法などである。われわれは毎日、大村湾を通る商船や漁船に対し、突撃の訓練を繰り返した。訓練時であるので、爆薬の代わりに同じ

重量の砂袋を積み、速力二十ノットの高速で目標船のギリギリの近くまで突っ込み、旋回して戻ってくる。白波をけ立てて暴走族さながらに洋上を走り廻ると、スカッとした気分になる。また、震洋艇に積載しているロサ弾（ロケット砲）の発射訓練をやったりしているうちに、フラストレーションは徐々に解消され、われわれの中に以前のような明るさが戻ってきた。

特攻基地「柏島」の生活

一か月半ばかりの特攻訓練も終わり、いよいよ特攻基地に配属になった。私は第八特攻戦隊、第二十一突撃隊、第一三四震洋隊に編入され、四国の柏島に配属されることになった。第一三四震洋隊の構成は、予備学生出身の隊長、艇隊長三名、予科練出身搭乗員四十五名、基地隊員百三十名である。

途中、呉軍港でも二週間の

休暇が与えられたが、帰郷は許されず、呉市でのんびり娑婆の空気を味わった後、船、汽車、バス、又船と乗り継ぎ、五月下旬、四国の南端、柏島に着いたのである。柏島にはすでに特攻基地としての準備が出来つつあり、震洋艇を格納する洞窟が海岸沿いに八か所ばかり作られていた。間もなく、二人乗りの五型震洋艇が二十四隻到着し、いよいよ特攻配備が完了したのである。

島の生活は少年の私にとって、死というものを考えに入れなければ、まことに楽しいものであった。われわれの宿舎は、正岡子規の「病床六尺」にもでてくる、山の中腹に建てられた小さい小学校である。夜、床のすき間から、のみがぞろぞろはい出し、かゆくてたまらなかつたが、それでも元気な若者達はぐっすり眠ることが出来た。

朝起きて点呼をとり、朝食後一時間ばかりの座学があり、そのあと夕方の点呼まではほ

とんどが自由時間である。特攻基地としての機密を守るため、洋上訓練は一切しなかつた。

北国津軽の暗い海ばかり見なれている私にとって、南国土佐の海はなんときれいなことか。真青な海面は初夏の陽光に照らされ、キラキラと輝く。海底をのぞくと珊瑚が生え、名も知らない美しい魚が泳いでいる。大きなウニを取って食べたりました。ふんどし一本で海岸を泳ぎ廻り、疲れれば砂浜や岩の上で寝そべる。青空に浮かぶ白い雲を眺めていると、なつかしい故郷のことが頭に浮かぶ。時には死というものが、心をよぎる。それを振り払うようにして、又ザンブとばかり海に飛び込む。島には中年の海女が何人か居た。漁夫の女房だろうか。その海女たちと一緒にあわびをとった記憶もなつかしい。

私は潜水にはいくらか自信があつたが、どうしても彼女たちにはかなわなかつた。又、

山に野猿がいるというので探しに出かけたこともあつた。

柏島は四国本土に接近した、周囲三軒ばかりの小島で、中央には高さ百米ぐらいの小山があり、その頂上には白い灯台が立っている。島には人口三百人ぐらいの漁村があり、郵便局や銭湯もあつた。夕方になると島の人々と一緒に銭湯に入り、まるで軍隊にいるという気はしなかつた。夕食後は島でとれた魚や貝をさかなにやはり島で作った諸焼酎を買って飲む。お互いに故郷のことや予科練時代のことを話し合い、そして歌い騒いで寝るのである。

その間にも島にグラマン戦闘機が来襲し、機銃掃射を受けたこともたびたびあつた。敵は柏島が特攻基地であることを薄々察知していたらしく、島の沖に敵の潜水艦が浮上し偵察していたような節もあり。なんとなく薄気味が悪かつた。

特攻隊の待遇

かも知れない。

(続)

特攻隊に配属になったため、待遇面ではかなり恵まれていた。階級も一階級特進し、下士官に昇格した。川棚訓練所では訓練中に航海手当が付いたし、移動中の旅費も全額支給され、私は当時の金で千二百円も貯金していた。兵隊の月給が十六円の時代である。その中から、千円を青森の両親に送っている。実家では別に金に困っているわけではなかったが、柏島での生活は何不自由なく、いずれ死ぬ身の私にとっては、金などどうでも良かったのである。

又当時、よそでは絶対にお目にかかれないチョコレートなども配給になった記憶がある。聞くところによると、三年分の酒保物品が前倒しになったと言われている。どうせ若死にしてみらうのだから、今のうちに食べ物だけでも満足させてやろうという、司令部のはかない親心であったの

【筆者プロフィール】

住所 青森県青森市

氏名 小野 一 (当時五十三才)

軍歴

昭和十九年四月一日 土空入隊

(甲十四期生)

昭和二十年三月末 川棚臨時訓練所に入隊 震洋隊としての特別訓練を受ける

昭和二十年五月 第八特攻戦隊第二十一突撃隊第三百四十四震洋隊に編入、四国柏島に配属

昭和二十年八月末 除隊

当時 青森高等職業訓練校勤務

令和三年五月 水上特攻艇

「震洋」の戦死者を祀る長崎県川棚町の「特攻殉国の碑」の近くに、震洋の原寸大模型を納めた展示館が完成した。元隊員でつくる「特攻殉国の碑保存会」が会員の高齢化で

解散した後は、地域住民が碑の管理や毎年五月に開催される慰霊祭の運営を引き継いでいる。
(編集委員)



(水上特攻「震洋」展示館)

雄翔館見学者感想文

今回で四度目位の訪問になります。ここへ来ると、時間を忘れてずっと居てしまいます。未成年の歳で、皆さん字や思い、考え方は大人びてい

て、今の若者とは全く違う印象を受けます。現在はコロナ、物価高で、生活保護をたよりにする人も多く、若くして自殺する人のニュースもよく見ます。そんな人達に来て見てほしい場所です。入館料もとってください。ずっと維持して開館し続けてほしいです。自分だったら、笑って散るなんて、想像すらできない。散っていった多くの人たちのおかげで今の日本があることをもっとアピールしてほしいです。

ありがとうございます。

令和四年十一月

東京都 高橋様 (四十二歳)

「すごくかなしいなっ」と

おもいました。

令和四年十一月

牛久市 なるしま様 (八歳)

いろいろ見れてうれしかったです。

令和四年十一月

牛久市 なるしま様 (十歳)

感動しすぎて涙が止まりません。

令和四年十二月
本宮市 小野口様

(七十三歳)

この方々の年代で自分が同じことが出来たであろうか？

学業にしても精神力にしても。自分としては雄翔館は心が安らぐ場所ですね、しかし遺書や遺品を見ると心が痛みます。彼等の生きた時代を後世に伝えたいと思う。

令和四年十二月

埼玉県鳩山町 浅澤様
(五十七歳)

第五十六回予科練戦没者
慰霊祭玉串奉納者ご芳名簿

(追加分)

五千円 茨城県稲敷市

満岡 忠之 様

五千円 神奈川県横浜市

加藤貴美子 様

一万円 長野県大田市

神社 正幸 様

一万円 茨城県阿見町

武器学校OB会 様

一千円 茨城県つくば市

片岡 寛 様

【供物奉納者】

(第五十五・五十六回慰霊祭)

献酒二升 埼玉県熊谷市

菓子 安田 直弘 様

(第五十五回慰霊祭)

献酒二升

偲ぶ集い献酒

(第五十六回慰霊祭)

献酒二升

献米十キロ

神奈川県南足柄市

金井 克巳 様

(第五十五・五十六回慰霊祭)

果物 栃木県足利市

山岸 修次 様

皆様のご支援に

感謝申し上げます。

訃報

海原会副理事長酒井省三様は、令和五年七月四日午前三時過ぎ心臓疾患のために、数え七十七歳にてご逝去されました。



平成二十三年五月に理事に就任されて以来十二年の長きにわたり、海原会の充実発展に寄与していただきました。近年は副理事長として予科練戦没者慰霊祭の実行委員長を務めていただいたり、理事長の代理として他団体が主催する慰霊会に参列していただくなど幅広い活動をしていただいております。

謹んで酒井副理事長のご冥福をお祈り申し上げます。

【お知らせ】

海原会事務局は、令和五年八月十一日(金)～十六日(水)の間夏季休暇のため不在となります。

急用の方は、
〇九〇―二二一三一―〇九一
にお電話ください。

事務局日誌

五月

一日

支部長業務引継ぎ

於 所蔵庫

霞ヶ浦支部廃止に伴い、

支部の業務を行方参与が

引き継いだ

一日

NHK記者訪問

於 事務局

参加者 平野事務局長

行方事務局次長

NHK水戸支局の記者が、慰霊祭の取材事前調整のために来所

十一日

評議員選定委員会

於 事務局

参加者 酒井副理事長、

平野事務局長、豊岡監事、

原雅英氏、小林正志氏

十三日

慰霊祭実行委員会

於 事務局

慰霊祭の最終実行委員会

を開催

十七日

手水鉢槌交換作業

於 雄翔園

武器学校広報班の支援を

得て、雄翔園内手水鉢槌

二十六日

慰霊祭準備作業

於 武器学校

武器学校において慰霊祭

準備作業を実施

二十七日

筑波空慰霊祭参加

於 筑波空記念館

酒井副理事長が出席

二十七日

偲ぶ集開催

於 ホテルマロウド筑波

慰霊祭前夜の偲ぶ集いを

開催した

二十八日

予科練戦没者慰霊祭

於 雄翔園

約三百五十名が参加して

慰霊祭を開催した

三十一日

湯原評議員来所

於 事務局

湯原弘評議員が慰霊祭の

反省点などについて、事

務局長と意見交換を実施

六月

六日

霞ヶ浦高校表敬

於 霞ヶ浦高校

平野事務局長が、学校長

と面談し、慰霊祭のポラ

ンティア証明書を手交

七日

雄翔館定期清掃

於 雄翔館

雄翔館の定期清掃を外注

で行った。平野事務局長が立会した。

七日

三者連絡会

於 事務局

予科練平和記念館長、阿

見町観光ガイド会長、同

副会長、阿見町生涯学習

課担当、平野事務局長が

参加

八日

慰霊祭備品の保管庫搬入

於 所蔵庫

慰霊祭で使用した備品等

の手入れ終了に伴い保管

庫に搬入した

十四日

映画監督松村様来所

於 事務局

阿見町で予定の予科練関

連映画撮影の協力につい

て、平野事務局長と意見

交換

十五日

慰霊祭反省会

於 武器学校

参加者 総務課長、広報

援護班長、広報幹部、行

方様、酒井副理事長、平野事務局長

十七日

六月定例理事会

評議員会の開催

於 ホテルマロウド筑波

六月理事会及び評議員会

を開催して、令和四年度

事業報告者や収支決算書

について審議を行った。

二十日

一橋大学生来所

於 事務局

一橋大学生の野村様が、

博士論文作成資料収集等

の為に来所した。

三十日

慰霊祭備品整理

於 所蔵庫

慰霊祭備品の整理を実施



海原会会員の皆様へ

小さくてもあたたかい

一 日 葬 葬

お葬式のご依頼や
「もしものとき」に
備えた事前のご相談
年中無休で承ります

相談
見積 **無料**

お客様満足度
99%

※当社施行アンケート調べ
自宅葬、日葬、お別れ会のほか、
ご希望に合わせた
お葬式プランがございます。

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期しています。

お墓

お墓のことなら何でもご相談ください。墓石工事は信頼の10年間の保証書付きです。

墓所工事

標準価格
(10万円以上)の
10%割引

サービス提供エリア:
関東・関西・東海



「お墓のお引越しガイド
& 事例集」

無料で資料を差し上げます。

お葬式

葬儀一式をセット化した「葬儀式セットプラン」を各種ご用意。最適なプランをお選びいただけます。

葬儀

祭壇標準価格の

20%割引

※一部斎場、一部商品は除く。
新花で送る家族葬は
優待料金

サービス提供エリア: 関東



「お葬式の流れが
わかる100項目」

無料で資料を差し上げます。

お仏壇

仏壇店は首都圏に2店舗(国分寺・千葉)。伝統型仏壇や家具調仏壇、手元供養商品まで豊富な品揃えです。

仏壇

店頭価格の
25%割引

※ただし、催事特価品と
仏具小物、手元供養商品
は対象外

サービス提供エリア: 関東



「お仏壇カタログ」
「特選 お位牌」

無料で資料を差し上げます。

お問い合わせは
海原会事務局へ

029-886-5400

お問合せの際は、「予科練を見た」とお申し出ください。

MAO
MEMORIAL ART OHNOYA



メモリアルアートの大野屋

<http://www.ohnoya.co.jp>



「予科練」第478号9・10月号
昭和53年7月26日第3種郵便物認可

令和5年9月1日発行
（隔月奇数月1回1日発行）

発行人 安井 剛
編集人 塚 純一

発行所 〒300-0301

公益財団法人 海原会
茨城県稲敷郡阿見町青宿489番地1
(慎輝ビル3階)

郵便振替
001401915433002
02918861644002

定価500円